



愛媛大学 防災情報研究センター
教授 木下 誠也

各市町村の配分額

市町村配分総額 282.5	基本指標+配慮指標 合計(A)		均等割 20.5 (B)	計 (A) (B)	
	割合	順位			
那覇市	52.2	18.5%	1	0.5	52.7
沖縄市	21.9	7.8%	2	0.5	22.4
うるま市	20.2	7.1%	3	0.5	20.7
浦添市	18.4	6.5%	4	0.5	18.9
宜野湾市	15.4	5.5%	5	0.5	15.9
名護市	11.6	4.1%	6	0.5	12.1
宮古市	11.0	3.9%	7	0.5	11.5
糸満市	10.2	3.6%	8	0.5	10.7
豊見城市	10.0	3.6%	9	0.5	10.5
石垣市	9.9	3.5%	10	0.5	10.4
南城市	7.4	2.6%	11	0.5	7.9
読谷村	7.0	2.5%	12	0.5	7.5
南風原町	6.1	2.2%	13	0.5	6.6
西原町	6.1	2.1%	14	0.5	6.6
八重瀬町	5.1	1.8%	15	0.5	5.6
北谷町	4.8	1.7%	16	0.5	5.3
竹富町	4.5	1.6%	17	0.5	5.0
本部町	3.6	1.3%	18	0.5	4.1
中城村	3.5	1.3%	19	0.5	4.0
久米島町	3.4	1.2%	20	0.5	3.9
与那原町	3.3	1.2%	21	0.5	3.8
北中城村	3.2	1.1%	22	0.5	3.7
国頭村	3.1	1.1%	23	0.5	3.6
座間味村	3.0	1.0%	24	0.5	3.5
嘉手納町	2.9	1.0%	25	0.5	3.4
今帰仁村	2.8	1.0%	26	0.5	3.3
金武町	2.7	0.9%	27	0.5	3.2
伊江村	2.6	0.9%	28	0.5	3.1
恩納村	2.5	0.9%	29	0.5	3.0
伊是名村	2.5	0.9%	30	0.5	3.0
伊平屋村	2.3	0.8%	31	0.5	2.8
渡名喜村	2.2	0.8%	32	0.5	2.7
多良間村	2.2	0.8%	33	0.5	2.7
与那国町	2.2	0.8%	34	0.5	2.7
大宜味村	2.1	0.7%	35	0.5	2.6
粟国村	2.0	0.7%	36	0.5	2.5
渡嘉敷村	1.8	0.6%	37	0.5	2.3
東 村	1.8	0.6%	38	0.5	2.3
南大東村	1.8	0.6%	39	0.5	2.3
宜野座村	1.7	0.6%	40	0.5	2.2
北大東村	1.6	0.5%	41	0.5	2.1
都 市 計	188.2	66.6%		5.5	193.7
町 村 計	94.3	33.4%		15	109.3
市町村計	282.5	100.0%		20.5	303.0

方針を示した。また那覇空港の滑走路増設に関して野田首相は整備を促進していきたいとした。

会談で仲井真知事は那覇空港の滑走路増設事業に触れ、「那覇空港は沖縄全体の心臓。だが現状の運用はキツキツの状態となっており、もう一本滑走路が必要。ぜひ早めに完成・供用できるように取り組んでもらいたい」と述べた。

また野田首相は「具体的な沖縄振興や基地負担軽減の成果を挙げて県民の信頼を取り戻したい」と振興等に積極的に取り組む姿勢を見せた。そのほか沖縄振興に関連して、現在国会に提



この度建設論壇に参加させてもらうことになりました。平成19年から20年にかけて沖縄に勤務して以来久々に登場します。どうぞよろしくお願ひいたします。

最近では気候の変動が激しくなっています。夏は猛暑、そして洪水かと思えば冬は寒波と世界各地で異常気象が起きています。昨年末まで続いたタイの大洪水は、わが国をはじめ世界のパソコンや自動車などの生産に大きな打撃を与えました。12月に土木学会調査団に参加し現地を見る機会を得たので、ここに感じたことを述べます。

タイ大洪水は、平年なら1つしか来ない台風が5つも来襲したという異常現象によるものでした。なぜここまで長期間広範囲な洪水が起きたのでしょうか。

タイの大洪水に思う

うか。日本の国土の半分近い16万平方キロメートルのチャオプラヤ川流域に降る年間雨量は平均で1、100mmで5月から10月の雨期に集中しています。昨年3月から多くの雨が降り始め雨期全般にわたって雨の多い年でした。6月から9月に

は、上流には数々のダム、デルタには農業用水路を縦横に整備してきましたが、これらは主に米作の拡大のためでした。毎年通常は1つしか上陸しない台風による降雨の恵みを得るだけ有効に利用しようと、政府灌漑局はダム、水門、排水機場な

であり、災害発生時にも衛生通信車を配置し、関係機関に映像配信したのは記憶に新しいと思います。昨年の東日本大震災では、各地方整備局からなる支援部隊であるTEC-FORCEが道路の啓開(障害物を除去して救急救援のための通行を回復すること)やポンプ車による溜まった海水の排水などで重要な役割を果たしました。沖縄で大災害が発生した場合には、内地から応援が駆けつけるのは容易でない可能性があり、沖縄総合事務局等の国の出先機関の役割が欠かせないと思います。

かけての雨量は平年を3〜4割上回りました。タイ北部の2、000m級の山地や沖積台地に降った雨は南へ流れタイ北部への入口ナコンサン(標高20〜25m)に集まります。さらに南へ150km下ると標高15m程度のチャイナートに至りま

至る100kmほどの区間が新デルタです。新デルタはアユタヤ王朝以降海面が下がってできたものです。ここに流れこんできた洪水は行き場を失いお盆に溜まった状態になるのです。浸水した7つの工業団地はそこにありました。被災した80

大きな洪水被害となつたのは、もともと洪水の度に氾濫していた土地に工業団地や住宅地などが拡大したのに対して治水対策が追いつかなかったためです。タイには治水に責任を持つ国の機関がありません。政府灌漑局

が直ちに現地に照明車と今、国の地方出先機関の見直しに議論されていますが、平時だけでなく災害など緊急事態をも想定して、国の機関に期待する役割を普段から論じておくことが必要ではないでしょうか。